

「令和2年度 第1回 CPD 研修会@online」開催報告

1. はじめに

道南技術士委員会では、地域の担い手や技術水準の向上を目的に道南圏に根付いた技術者の育成に対して取り組みを行っております。しかしながら、近時のコロナウィルス感染症拡大防止の観点よりこれまでの臨場方式による研修会の開催は感染リスクが大きいことから、様々な工夫が必要となり、またソーシャルディスタンスが確保される会場手配が必要となります。本報告では、「新しい生活様式」の奨励に準拠したオンライン(リモート)研修会を試行し、実施後にアンケート調査を実施しましたので、その開催内容と新たな課題等について紹介いたします。

2. 新型コロナウイルス感染防止を図る【新しい生活様式】について ※厚生労働省 HP より

(1)一人ひとりの基本的感染対策

感染防止の3つの基本：①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗いの厳行、移動に関する感染対策

(2)日常生活を営む上での基本的な生活様式

一人ひとりの健康管理の重点化、こまめな換気の実施、3密の回避(密集、密接、密閉)の回避

(3)日常生活の各場面別の生活様式

買い物時の注意、娯楽・スポーツ等における注意、公共交通機関利用時の注意、食事時の注意、イベント等への参加時の注意

(4)働き方の新しいスタイル

- ①テレワークやローテーション勤務
- ②時差通勤の推奨
- ③オフィスはひろびろと
- ④会議はオンライン
- ⑤対面での打合せは換気とマスク

3. 「online 研修会」開催プロセス

- ①4月に年間開催行事の方針を会議し、第1回研修会はオンラインによるweb配信講習とすることが掲げられました。(※7月以降の研修会については状況を鑑みて開催方法を考慮する。)～7月開催のオンライン研修会開催の協議内容～
 - ・方法や事前準備は青年幹事が行う。
 - ・リモートソフト費用については予算配分する。
 - ・試行研修会のため、道南委員会員を対象とする。
- ②7月2日に以下の内容を決定しました。
 - ・研修内容：2名の講師役で技術発表を行う。
 - ・役割分担：ホスト役及び補助者(リモート中継が正常に行われているかの確認者)
 - ・配信のタイムスケジュール
 - ・利用ソフトの選定
 - ・CPDエビデンスの配布方法
 - ・開催案内文及びリモート配信ガイドの内容
- ③7月6日迄にMicrosoft Teamsの契約とホストアカウントの設定、研修会案内状を配信。
- ④7月14日迄に受講者を確定し、ゲストアカウント(無料)配布とweb会議受講ガイドの送信。
- ⑤7月22日迄にログイントラブルの対応。(受講ガイド通りに進められなかった方の個別対応)
- ⑥7月28日：研修会LIVE配信のリハーサル実施。
- ⑦7月30日：オンライン研修会の開催。
- ⑧7月31日～：研修会アンケートの送信・集計。

4. online 研修会の準備資料について

オンライン研修会の開催にあたり、実施後の課題抽出やより円滑なリモート研修会を実施するためのフィードバック作業をイメージした際に、少しでも多くの参加者確保が重要になると考え、以下の項目

に注意しました。※結果として 50 名もの参加希望を頂きました。

①参加案内時に注意した事項

- ・一度に沢山の情報量を送信しない事。
- ・受講者が事前準備としてアプリケーションのインストール作業などの負担が生じない事。
- ・年輩技術者が参加意欲を無くさないような参加フォローアップの実施。

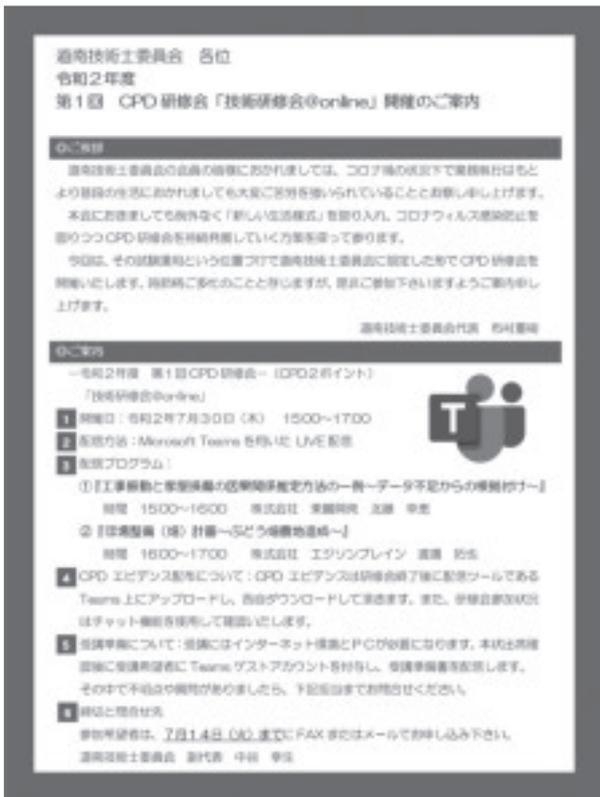


図-1 配信したオンライン研修会案内状

POINT !

オンラインソフトは、受講者のソフトのインストール手間が無く、招待メールのリンクから web ブラウザを介して視聴可能な物とし、「利用者の負担軽減」という点を優先して、Microsoft Teams を選定しました。

②リモート研修会への参加ガイドの案内

- ・簡単なガイドに沿って進むだけで受講できるよう準備しました。



図-2 研修会参加ガイド

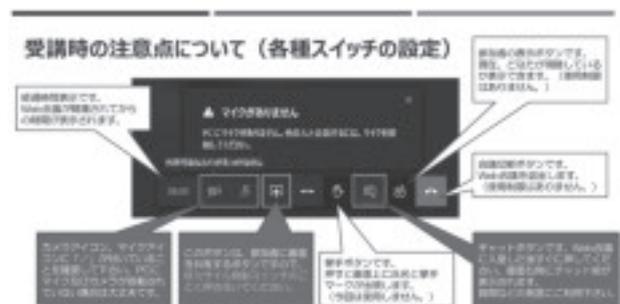


図-3 操作バーの使い方説明資料

③事前トラブルのフォローアップ

- ・研修会事前に数件の再招待依頼とログイントラブルがあり、電話とメールで対応しました。

5. online 研修会当日の動き

研修会当日は、開催の 1 時間前に開場し、研修会のスケジュールと操作説明の動画を配信することで、会議に参加できているかを確認して頂きました。

①技術研修会講師による技術発表

『工事振動と家屋損傷の因果関係推定方法の一例～データ不足からの根拠付け～』

株式会社 東鵬開発 北藤 幸恵 氏

事前調査結果が無い中で事業損失の因果関係立証方法の一例について解説して頂きました。

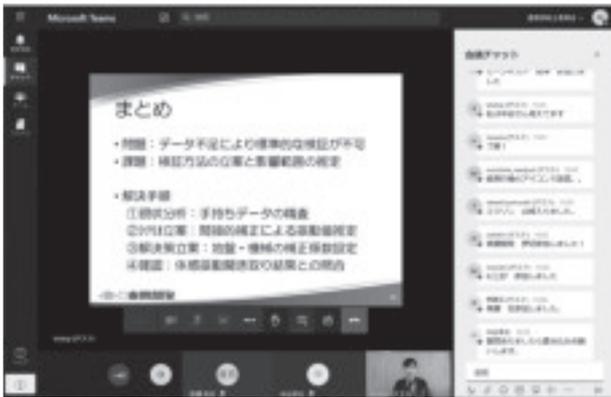


図-4 北藤氏の技術発表の状況(1)



図-5 北藤氏の技術発表の状況(2)

『ほ場整備(畑)計画～ぶどう畑農地造成～』
株式会社 エジソンブレイン 渡邊 拓也 氏

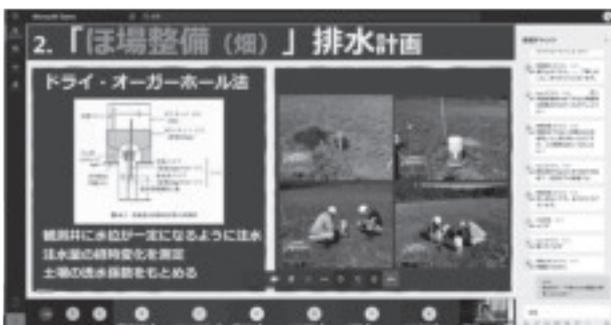


図-6 渡邊氏の技術発表の状況

民間事業者が発注者であるワイナリー造成計画という前例が希薄な業務への対応事例を題材に解説して頂きました。

②参加者からの質問回答

参加者からの質問は画面右横のチャット板に記載して頂き、ホスト役が質疑応答形式で発表者に問う方法をとりました。臨場方式と遜色のないテンポでスムーズに進めることができました。



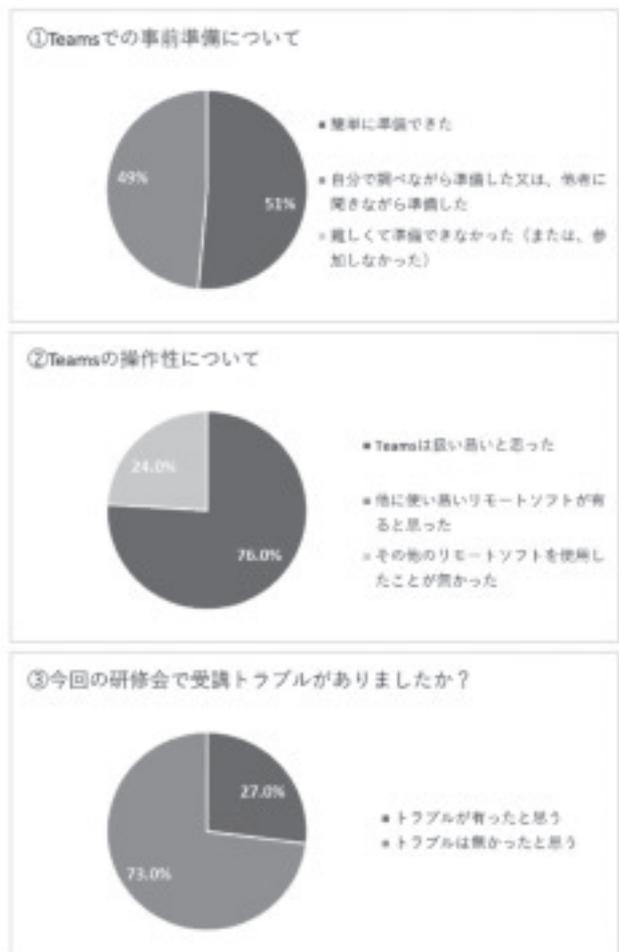
図-7 発表後の質問と回答の様子

16:38
ぶどう畑のワイヤーは上下と真ん中で径や本数が異なる理由は何ですか？支柱は何年くらいで更新となるのでしょうか？

図-8 会議チャット質問の抜粋

6. アンケート結果と今後の課題

今後のオンライン研修会をより円滑に開催できるよう、参加者 50 名に対して以下のアンケート調査を行い、37 名から回答を頂きました。



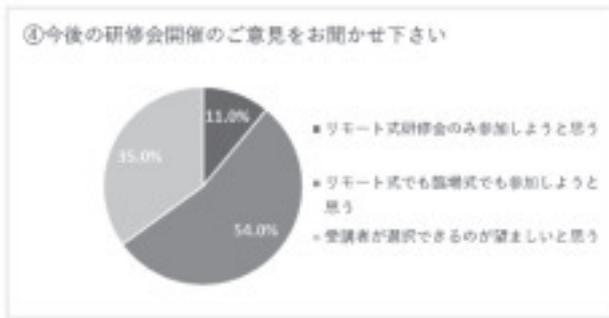


図-9 アンケート結果

⑤【③】でトラブルがあった方は、どのようなトラブルでしたか？

- ・ google chrome で参加すると発表者のカメラがこちらに表示されなかった。(Microsoft Edge で参加しなおすことで問題解決)
- ・ 開会前までに準備できなく、途中からの参加になってしまった。
- ・ 画像が遅れてくる。
- ・ 他の人は、同時に複数人の参加者映像を視聴していたが、自分にはそれが出来なかった。

⑥今後の技術研修会へのご意見・リクエストがあれば教えてください。

- ・ 今回の研修会は、すごく勉強になり、有意義な時間を過ごすことができました。
- ・ CPD 講習会が少ない中、講習会を実施頂き誠にありがとうございます。
- ・ とてもよかったですと思います。リモートなら研修会の回数を増やしても良いかなと思いました。
- ・ 今回が初めてのリモート研修体験でしたので、自分が対応できるかが心配はありましたが、委員会のわかり易い説明により実施することができました。このように新たな事を積極的に取り組む姿勢はいいと思います。
- ・ web 講習会の録画を行い、参加できなかった方が後から講習会を確認できるようになるといいのかなと思います。
- ・ 世情に配慮された素晴らしい取り組みだと思えます。web 講習は、参加させて頂く側にとっては大変ありがたいものでした。開催側(講師を含め)日常業務のなかで事前準備など大変なことだと思いますが、引き続きの開催を熱望します。

- ・ オンライン飲み会、いえ、オンライン意見交換会があってもいいと思います。
 - ・ リモートの場合、資料が画面で見れるので見やすい。また、質問事項も閲覧できるのでわかり易い。準備は大変でしょうが、今後増やしても良いかと思えます。
 - ・ 講習会の前後で発表資料をアップロードできれば個別で資料にメモができ、講習会が終わった後でも内容の確認ができるのではないかと思います。
- (※アンケート回答から抜粋し掲載)

7. 新たな課題とまとめ

CPD エビデンスは、シリアル番号が付されているため、所属会社分毎まとめたファイルをアップ&ダウンロードすることで対応できました。しかし、新たな課題として技術士会主催の研修会であっても、視聴しているだけの場合は、CPD の重み係数が0.5として取り扱われてしまうことが解りました。(※(一社)建設コンサルタンツ協会の場合の評価)

ただし、オンライン研修会中に質問・回答した履歴を別添資料として提出することで重み係数は1.0として評価されました。このように、ただオンライン講習を見聞きするだけでなく、きちんと「参加」していることの証明が必要だということです。

まとめ、今回のオンライン研修会は、初めての試みであり、事前準備を細部に渡り配慮したことで、円滑に実施することができました。また、アンケートの結果から研修会受講に際して、これまで臨場参加型から、臨場とリモートを選択できるようにするという点を直近の目標にして行きたいと考えています。

今後は、「誰でも」、「どこでも」、「いつでも」を目標としてウィルスの感染拡大防止のみならず、多様な働き方に対してシームレスな自己研鑽手法の構築を目指して参ります。

最後に、この度道南技術士委員会は略称として、【SOHPEC】: South Hokkaido Professional Engineer Committee として設定しましたことをこの場を借りてご報告いたします。